

魚沼駒ヶ岳山行記録



目的地	魚沼駒ヶ岳（銀山平から道行山経由）	期 日	平成18年5月5日（金・祝）（前夜現地入り）
山行人	笠原正雄単独	特 記	昨春と違うルートから残雪を登る。

地点名	(着)～(発)	天候	記 事
前夜現地入り 与板 発	前日午後 4:30	晴	叔父の三回忌法要の後、長岡で食料を調達。小出 IC へ。シルバーラインの夜間通行止め時間の3分前にゲート通過。丸山からのスキー帰り車が多い。
石抱橋	6:30	〃	橋を渡ってすぐ除雪終点。群馬ナンバー2台あり。車中泊。8時就寝。12時過ぎ、少し寒く、エンジンを掛けて車内を暖める。
〃 発	午前 5:00	〃	3時半に起き、湯をサーモスにつめ、ラーメンを煮て朝飯。3～4m の積雪に上がり、北ノ又川の左岸を進む。途中岸を離れて高巻く所もある。
柳沢出合	6:00	〃	北ノ又川の左折点を過ぎ、支流に沿って進むと広い沢との出合となる。沢奥の尾根を目指す進む踏み跡もあったが、1本目の尾根の踏み跡に従う。
H1064	6:30	〃	疎林の急登を経てここに来る。途中茶色の小動物が脇を駆け降りて行く。
夏道で休憩	6:45～7:00	〃	平らを進み登りにかかると僅か夏道が出ていた。イワウチワが咲く。
道行山	7:30～7:40	〃	夏道は5分で終わり、森林限界となり、広い雪尾根を登る。道行山の頂は雪が剥けている。小屋泊下山の群馬隊4人がいた。行く手のすべてが見える。ここからやや下ってから緩やかに登りながら進む。明神尾根と小倉尾根、R352 もよく見える。
小倉山 トラバース	8:10	〃	小倉山頂のブッシュの手前は急傾斜となっている。南斜面をトラバース。8:15 駒ノ湯からの上山トレースと合流する。緑のテント1張あり。
雪割れ夏道	8:20～8:40	〃	腰を下ろし、小指があたる左の靴を履き直す。東京からの単独者が行く。
H1459 平坦地	9:20	〃	休憩の東京人に追いつくが、再び先行される。
H1763 前駒	9:55	〃	百草ノ池は標柱も雪の下から見当たらない。そこからの登りが長く辛い。途中緑テント泊の女3男1人の若者隊が下りて来た。ここを登り終えて細尾根で、再び休憩中の東京人に追付く。ここ後の最急登に備えてピッケルに持ち替える。足元は軟雪でアイゼンの必要は無い。
駒ノ小屋前広場	10:15～10:50	〃	北側の一隅が露出しているのみで、小屋番が広場の除雪中。俺の顔を憶えていてくれた。景色を楽しみながら水割缶。ザックデポで山頂へ行く。
駒ヶ岳	11:05～11:10	〃	オツルミズ沢源流部も雪で埋もれていて、ほぼ直登に近いルートをとることが出来た。到着してセルフタイマーで写真を撮ろうとしていたら、すぐに一人が来たので撮り合う。危うく眼鏡を忘れるところを彼に教えて貰った。
駒ノ小屋前広場 ランチ	11:25～11:55	〃	今度は夏道の通り下る。分岐で中ノ岳縦走途中引返し男女4人隊と会う。単独縦走者が降りて来た。下山は岩場急降下のみピッケル使用、細尾根でストックに持ち替える。単独者が山スキーで上がって来た。
小倉山手前	12:30	〃	山スキー2人が先へ行くかやめるかと休んでいた。トラバースに入る。
道行山	1:05～1:20	〃	登り返して到着。後は下りのみ。夏道を過ぎ、2本目の尾根を下ることも考えたが、踏み跡がより確かな1本目の尾根の下りへと進む。
柳沢出合	2:05	〃	2本目尾根にスキーシュプールが描かれている。スキーだったらこちらが良い。踏み跡もしっかり見える。出合に下りると、林道の路肩が少し見えた。
駐車地点着	2:50	〃	出合からここまで、往路は我慢出来るが、帰りは全くうんざりする。

昨年は 05.21 に小倉尾根から登った。今年はこちらを行って見たかった。シルバーラインが規制で朝6時にならないと通れない。日帰りとも考えたのだが、少し窮屈なため前夜現地入りとした。お陰でゆっくり山を楽しめた。駒ノ湯からの上山と比べれば、柳沢までの退屈な歩きを考えると、灰ノ又まで車が入れば、アルパイトは同程度だ。しかし、合流までの両コースは全く印象が違う。予報では午後弱雨となっていたが、終日晴れて春山万歳であった。今回は先週の反省にたつて、日焼け止めクリームをたっぷり過ぎるほど塗りながら歩いたので、その効果はあった。